

花ごよみ

1月

2024年
12月25日
263号

発行：公財）東京動物園協会 井の頭自然文化園

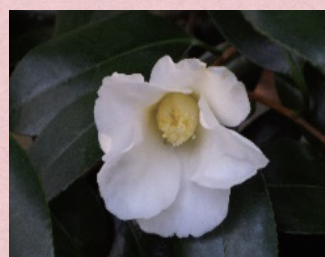
年が明けると、春に向けて次々とツバキが咲きだします。
名木紹介は長寿の大木ケヤキです。

ツバキ園

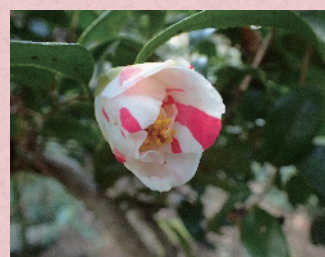
中国で「椿」の字は、センダン科の樹木チャンチンを指しますが日本では、ツバキにあてられました。その読みかたは「艶葉木（艶のある葉の木）」に由来します。



● 蕨椿（ヤブツバキ）



● 白侘助（シロワビスケ）



● 秋の山（アキノヤマ）



● 白玉絞（シラタマシボリ）



● 明石潟（アカシガタ）



● 乱拍子（ランビョウシ）



● 菊冬至（キクトウジ）



● 白太神楽（シロダイカグラ）



● 紅荒獅子（ベニアラジシ）

品種ごとに花形の特徴があります

蕨椿～白玉絞：一重咲 ● 乱拍子・明石潟：八重咲 ●
冬至：千重咲 ● 白太神楽：牡丹咲 ● 紅荒獅子：獅子咲 ●

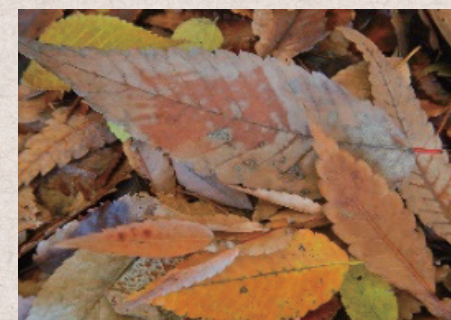
300本ほどのツバキが晩秋から春にかけて咲きます。江戸時代に作られた品種群「江戸椿」のうち、約50種が植えられています。

文化園の名木

ケヤキ（欒）

家畜舎の横にあるケヤキは、幹周410cm、高さ28mの大木です。樹齢は300年以上と推定され、井の頭池周辺が江戸時代に水源林だった頃からの樹木です。同じようなケヤキの大木がさらに4本（B～E）残っています。

※ Dは切株です。



最新号や過去の「花ごよみ」をスマートフォンでご覧になりたい方は、右のQRコードより公式HP、「東京ズーネット」にアクセスしてください。

